



みんなのおかげ

今日は12月5日、平成26年も終わりに近づきました。テレビでも今年を振り返る番組が放送されるようになります。

こどもたち一人ひとりにもいろいろなことがあったことと思いますがそれを振り返る時ぜひ、2つのとらえかたで振り返ってほしいと思っています。

1つは、うまくいった、成果が出た、上手になったという時に「それはみんなのおかげ」と考えるとということです。

野球を例に考えてみると、たとえば大会で優勝できたときです。それはチームメイトが力を合わせて勝ち取った優勝で、ひとり、自分だけが頑張ったわけではありません。ましてひとりでは大会に出ることもかないません。練習を支えてもらったお家の方、指導していただいた指導者の皆さん、応援して下さった方、すべてはみんなのおかげなのです。それが自覚できれば、まわりの人に感謝し、大切にし、礼をもって接する事ができるはずです。野球で学ぶことは技術ではなく「みんなのおかげ」という感謝の気持ち、そしてなにより人としての生き方を学ぶのです。友達と、班で、学級で、学年で、地域で、家庭で、あらゆるところで「みんなのおかげ」と振り返ってほしいのです。

2つめは、うまくいかなかった、成果が出なかった、上手になれなかったという時に「それは自分の責任」と考えるとということです。人はそんなとき往々にして人のせいにしてしがちなものです。あの人が悪い、指導が悪い、運が悪い、社会が悪いなど人のせいにするとうちは楽になるのかもしれませんが、「自分自身はどうか」と振り返らなければ自分が伸びるチャンスをみすみす見逃すことになってしまいます。うまくいかなかった時こそ責任を自分に求め、取り組み方やその方法、その期間や取組の質を考えると、人は伸びていくことができるのだと思います。野球で試合に負けた時、人のせいにして自分を振り返らない選手に伸びしろは無いのです。

保護者の皆さんもわたしたち教職員もこどもたちの教育に関わっています。こどもたちの生活の中には、うまくいくこともいかないこともたくさんあります。その時、その原因をどうとらえさせるかが教育であり、その後のこどもたちの伸びしろを左右するのだと思います。「うまくいったらみんなのおかげ、うまくいかなかったら自分の責任」と振り返る時、人は大きく変わっていくことができます。自分を変えていくということは自分の将来をより良く変えていくことにつながります。

【おめでとうございます！】

第14回全国障がい者芸術・文化祭鳥取大会国際アート展 美術部門 銅賞 濱田優晴
感謝状 宇野三ツ星盆踊り保存会 西村結希 尾坂歩美

12日の児童朝会で表彰します。よく頑張りました。 羽合小学校 寺谷英則